HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	はしがき
Author(s)	小内, 透
Citation	『調査と社会理論』・研究報告書, 34
Issue Date	2016-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/61364
Type	other
File Information	010_hashigaki.pdf



Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

はしがき

本報告書は、フィンランドにおける先住民族・サーミの現状を明らかにしたもので、小内透編著『調査と社会理論・研究報告書 29　ノルウェーとスウェーデンのサーミの現状』（2013 年）、小内透編著『調査と社会理論･研究報告書 32　ノルウェー･フィンマルク地方におけるサーミの現状』（2015 年）の続編にあたる。

世界の先住民族は、各国の近代化の過程で、同化と抑圧の対象となった。1970 年代以降、先住民族の復権に向けた取り組みが進められ、長い議論の末、「先住民族の権利に関する国際連合宣言」が、2007 年 9 月、国連総会において賛成多数により採択された。これをふまえ、国連は一昨年まで第二次「世界の先住民の国際の 10 年」（2005 ～ 2014 年）を設定し、世界各国で宣言を実質的なものとするための取り組みを求めてきた。日本を含め、現在でもその状況に変わりはない。

このような状況の下で、私たちの研究グループは、2012 年にアイヌ民族の復権をめぐる議論の基礎資料を得るため、アイヌ民族の現状と課題、比較対象としての北欧の先住民族・サーミの現状と課題に関する 4 年間の社会学的な実証研究のプロジェクトを立ち上げた。プロジェクトの 3 年目にあたる 2014 年にフィンランドのサーミに関する調査研究とアイヌの人々が多く居住する北海道白糠町における調査研究、プロジェクト 4 年目の 2015 年にフィンランドの継続調査を行った。本報告書は、このうち 2014 年 8 月および 2015 年 8 月に行ったフィンランド・イナリ地方およびヘルシンキでの調査結果をもとにしたものである。2014 年に実施した白糠町におけるアイヌ調査に関しては、すでに昨年『調査と社会理論』研究報告書 33 として刊行ずみである。

本報告書のもとになったフィンランド調査では、多くの方々にお世話になった。2014 年のヒアリング調査に協力して頂いたサーミ議会、サヨス（Sajos・サーミ関連諸機関の集合施設）、サーミ語教材課、サーミ若者協会、イナリ小中学校、サーミ教育専門学校（Sami Education Institute）、サーミ博物館（SIIDA）、イナリ言語の巣、サーミ・ラジオ・テレビ（YLE）、2015 年のヒアリング調査に協力して頂いた都市サーミ協会・言語の巣、イナリ・サーミ語協会、スコルト・サーミ文化財団、スコルト言語の巣、2015 年のアンケート調査に協力して頂いたサーミ教育専門学校、イナリ小中学校、イナリ言語の巣、スコルト・サーミ言語の巣、ヘルシンキ言語の巣の皆様に厚くお礼を申し上げる。また、通訳を引き受けてくださった喜納政和さんと匝瑳佐知子さん、調査票の翻訳をして頂いた山川亜古さんにこの場を借りて感謝の意を表する。

（付記）本報告書は、平成 24 ～ 27 年度の日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究 A）（研究課題「先住民族の労働・生活・意識の変容と政策課題に関する実証的研究」、研究代表者・小内透、課題番号 24243055）にもとづく研究成果である。

なお、本研究は、北海道大学アイヌ・先住民研究センターの第 2 期社会調査プロジェクトとしても位置づけられている。

北海道大学大学院教育学研究院
北海道大学アイヌ・先住民研究センター（兼務）
小内　透